

## 地理的な視点を基に、社会的事象を関連付けて意思決定できる生徒の育成

### 【主張】

「地理的な視点を基に、社会的事象を関連付けて意思決定できる」力は、社会科で育てたい思考力の一つである。しかし、現行学習指導要領の課題に挙げられている通り、その指導は難しい。これまでの指導を振り返っても、付けたい力を意識して「単元を貫く学習課題」を設定してきたが、一部の生徒にしか、地理的な視点を基に、社会的事象を関連付けることを促すことができなかつた。結果、明確な意思決定をさせることができず、対話をさせても社会的事象を列挙するのみとなつた。

そこで本研究では、生徒が自ら地理的な視点を基に、社会的事象を関連付けて意思決定できるように、「パフォーマンス課題」と「考える視点の重要度を位置付けたワークシート」を工夫した次の手立てを提案する。

- 課題把握段階から、自然環境、人口、産業、交通などの視点を盛り込んだ「パフォーマンス課題」を提示する。
- 意思決定段階で、考える視点の重要度を位置付けたワークシートを活用する。

### 1 研究主題設定の理由

学習指導要領社会編では、「社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う」ことが求められている。思考・判断したことを説明したり、議論したりするためには、社会科における各分野の視点を基に、社会的事象を関連付けて意思決定できる力が必要になると考える（資料 P.1、2）。

これまでの自分の実践を振り返ると、単元の意思決定段階で、「単元を貫く学習課題」を設定し、社会科における各分野の視点を基に、社会的事象を関連付けて意思決定できる力を育もうと努めた。この方法では、既習事項から「単元を貫く学習課題」に関連すると考えられる社会的事象を選択することはできた。しかし、社会的事象を列挙したり、習いたての知識に偏った説明をしたりするに留まつた。結果、社会科における各分野の視点を基に、社会的事象を関連付けて意思決定する姿が十分には具現できず、対話をさせても社会的事象について情報交換するのみとなつた。

これらは、①関連付ける社会的事象を選ぶ際の視点が不明確だったこと。②複数の社会的事象を関連付けた上で意思決定する必要性が弱かつたことが原因として考えられる。

そこで本研究では、①の課題を解決するために、課題把握段階で、自然環境、人口、産業、交通などの視点を盛り込んだ「パフォーマンス課題」を提示する（資料 P.2）。また、②の課題を解決するために、意思決定段階で、考える視点の重要度を位置付けたワークシート（以下、WSと表記）を使って「パフォーマンス課題」に対する意思決定をさせる場を設定する。これらによって、生徒が地理的な視点を基に、社会的事象を関連付けて意思決定できる姿が期待できると考え本研究主題を設定した。

### 2 研究仮説

単元を通して、次の(1)・(2)の手立てを講じれば、生徒が地理的な視点を基に、社会的事象を<sup>※1</sup>関連付けて意思決定することができるであろう。

- (1) 課題把握段階から、自然環境、人口、産業、交通などの視点の条件を盛り込んだ「パフォーマンス課題」を提示する。
- (2) 意思決定段階で、考える視点の重要度を位置付けたワークシートを使って「パフォーマンス課題」に対する意思決定をさせる場を設定する。

※1 ここでいう「関連付けて」というのは、社会的事象同士の因果関係を明らかにしている姿を想定している。例）都市部では人口が多いので、仕事が多い。（人口と産業の因果関係を明らかにしている。）

### 3 研究内容と検証方法

(1) 対象者 佐渡市立高千中学校2年1組7名（男子4名、女子3名）

(2) 研究内容

- ① 課題把握段階から、自然環境、人口、産業、交通などの視点の条件を盛り込んだ「パフォーマンス課題」を提示する。

生徒が地理的な視点を基に、関連付ける社会的事象を明確にさせるために、自然環境、人口、産業、交通などの視点の条件を盛り込んだ「パフォーマンス課題」を提示する。提示する際、関連付ける社会的事象を生徒が認識しやすいよう、どんなことを明らかにしたら意思決定できそうかを問い、タブレット端末で作成したワンペーパーポートフォリオ（以下、OPPと表記）に記録させる（資料P.4）。この「パフォーマンス課題」を課題把握段階から提示することで、生徒が単元全体を通して自然環境や人口、交通、産業などに関する地理的な視点を基に、関連付ける社会的事象を明確にできる姿を期待した。

- ② 意思決定段階で、考える視点の重要度を位置付けたワークシートを活用し、「パフォーマンス課題」に対する意思決定をさせる場を設定する。

複数の社会的事象を関連付けた上での意思決定を促すために、単元の意思決定段階で、考える視点の重要度を位置付けたWSを活用し、「パフォーマンス課題」に対する意思決定をさせる場を設定する。考える視点の重要度を比較・検討することで、視点同士の関連に目を向けやすくなる。また、順位付けする中で、なぜ自分がその視点を重要と考えたのかを説明する際に、根拠に厚みを出そうとする意識が強くなる。結果として、既習の複数の社会的事象を関連付ける必要性が高まり、社会的事象を関連付けた上での意思決定がなされやすくなると考えた。

(3) 検証方法

対象生徒を中心とした学級集団の学びの様子（つぶやき、発言、ワークシート等）から検証する。

4 研究の実際と考察

(1) 実践1 単元名 地理的分野「中国・四国地方」〈R4年10月〉

① 目指す生徒の姿

地理的な視点を基に、社会的事象を関連付けて意思決定できる姿

↓〈本單元における目指す生徒の姿〉

「パフォーマンス課題」に登場するKさんの引っ越し先について、地理的な視点を基に、中国・四国地方の社会的事象を関連付けながら、具体的な引っ越し先を提案することができる。

② 実践1の実際

研究内容①	<p>〈地理的な視点を基に、意思決定している生徒〉</p> <p>単元の課題把握段階で、資料P.5のような「パフォーマンス課題」を提示した。課題を解決するために生徒Aは、「中国・四国地方の地域特色（気候・自然環境）」「周りの就職場所」を、生徒Bは、「中国・四国地方の環境や気候」を知る必要があると述べた。全体に、何がわかれば提案できそうかと問うと、「中国・四国地方の自然環境」「都市や田舎の暮らし」「就職状況」という自然環境や人口、産業などの地理的な視点をあげてきた。その上で、単元の課題認識段階で課題に対する自分の考えを書かせた。生徒Aは「愛媛県。みかんなどの特産物が育てられ、橋で都市部に移動できるから。」とまとめ、生徒Bは「過疎地に住んで、道が整備されていて、環境にいい場所。」とまとめた。自然環境や人口などの地理的な視点を基に思考していることは確認できたが、社会的事象を関連付ける姿にまでは至らなかった。</p>												
研究内容②	<p>〈地理的な視点を基に、社会的事象を関連付けて意思決定している生徒〉</p> <p>単元の意思決定段階で、資料P.6のような視点を絞り込むWSを活用し、「パフォーマンス課題」に対する意思決定をさせる場を設定した。生徒は、自分が重要視する視点を複数選択し、その視点に合致する社会的事象を教科書やOPPから選択できた。また、成果物を見ると、選択した社会的事象とパフォーマンス課題とを相互に関連付け、因果関係を明らかにし、自分なりの意思決定ができた（資料P.7）。しかし、社会的事象同士の関連付けは不十分であり、パフォーマンス課題と社会的事象が個別に結び付いている状態であった。求めているよりよい意思決定には至っていないと考える。</p>												
検証結果	<p>意思決定時のまとめを、次の評価基準に照らし合わせて評価したところ、次のような結果となった。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;"></th> <th style="width: 85%;">評価基準</th> <th style="width: 10%;">人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td>地理的な視点を基に、中国・四国地方における複数の社会的事象同士を関連付け、意思決定できる。</td> <td style="text-align: center;">1人</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td>地理的な視点を基に、中国・四国地方の社会的事象を関連付け、意思決定できる。</td> <td style="text-align: center;">6人</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">C</td> <td>C：Bに至らない</td> <td style="text-align: center;">0人</td> </tr> </tbody> </table>		評価基準	人数	A	地理的な視点を基に、中国・四国地方における複数の社会的事象同士を関連付け、意思決定できる。	1人	B	地理的な視点を基に、中国・四国地方の社会的事象を関連付け、意思決定できる。	6人	C	C：Bに至らない	0人
	評価基準	人数											
A	地理的な視点を基に、中国・四国地方における複数の社会的事象同士を関連付け、意思決定できる。	1人											
B	地理的な視点を基に、中国・四国地方の社会的事象を関連付け、意思決定できる。	6人											
C	C：Bに至らない	0人											

## ② 実践1の考察

単元の課題把握段階で、自然環境、人口、産業、交通などの視点の条件を盛り込んだ「パフォーマンス課題」を提示したことは、生徒が地理的な視点を基に思考する上で有効であった。このことは、抽出生徒A、生徒Bの記述や、全体の中より出た発言から判断できる。

意思決定段階においても、地理的な視点を基に、生徒全員が習いたての知識に偏ることなく、知識獲得段階初期のものも含めて、パフォーマンス課題と社会的事象を関連付け、意思決定できていたことから、知識獲得段階でのOPPとパフォーマンス課題の提示がうまく機能していたと考えられる。

一方、意思決定段階で自分の考えをまとめたり、他者と対話をしたりしたときに、社会的事象の関連付けが不十分であった。これは、意思決定する際に、社会的事象同士を比較・検討する必要性がなかったことが原因と考えられる。より多くの関連付けを促すためには、視点に基づいて選択した社会的事象を、比較・検討したいと思える状況をつくる必要がある。したがって、実践2ではWSにおいて、意思決定の要因となる視点の重要度を生徒に意識させる工夫をする。視点の重要度を決定する順位付けをすることで、比較・検討が促されることを期待する。

## (2) 実践2 単元名 地理的分野「関東地方」〈R5年3月〉

### ① 目指す生徒の姿

地理的な視点を基に、社会的事象を関連付けて意思決定できる姿

↓〈本単元における目指す児童の姿〉

「パフォーマンス課題」に登場する市役所職員に、関東地方が経済的に発展している理由について、地理的な視点を基に、関東地方の社会的事象を関連付けながら、具体的な要因を決めて説明することができる。

### ② 実践2の実際

研究 内容 ①	<p>〈地理的な視点を基に、社会的事象を関連付けて意思決定している生徒〉</p> <p>単元の課題認識段階で、資料P.8のような「パフォーマンス課題」を提示した。課題を解決するために生徒Aは、「関東地方の自然環境、歴史、文化」を、生徒Bは、「関東地方の気候、文化、歴史」を知る必要があると述べた。全体に、何がわかれば具体的な要因を決めて説明できそうかと問うと、「関東地方の気候や地形」「交通網」「人口」「外国との関わり」「産業」などという地理的な視点をあげてきた。その上で、単元の課題認識段階で課題に対する自分の考えを書かせた。生徒Aは「交通網の発達した江戸が発展したため、東京も都会化したため。」とまとめ、生徒Bは「昔からの交通網や産業が関係していて、平野も広がっているので人口も多いから。」とまとめた。このことから、交通網や産業などの地理的な視点を基に、根拠はうすいが社会的事象を関連付けて意思決定している姿を確認できた。</p>												
研究 内容 ②	<p>〈地理的な視点を基に、複数の社会的事象を関連付けて意思決定している生徒〉</p> <p>単元の意味決定段階で、資料P.9のような視点を3つに絞り、重要度を順位付けするWSを活用した。自分の考えをまとめる前に、資料P.10のように視点の共有化を行い、「パフォーマンス課題」に対する意思決定をさせる場を設定した。生徒Aは、「①・・・②・・・③・・・」、生徒Bは「①・・・②・・・③・・・」とするなど、自分が重要視する視点を順位付けし、その視点に合致する社会的事象を教科書やOPPから選択した。また、生徒同士の対話の中で、選択した社会的事象同士を相互に関連付け、因果関係を明らかにして自分なりの意思決定につなげる姿を確認できた。(資料P.11、12)。成果物を見ると、関東地方の自然環境、人口、産業、交通などの地理的な視点を基に、複数の社会的事象を関連付けて意思決定する生徒が増加した。</p>												
検 証 結 果	<p>授業後の振り返り(学習作文)を、次の評価基準に照らし合わせて評価したところ、次のような結果となった。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">評 価 基 準</th> <th style="text-align: center;">人 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td>地理的な視点を基に、関東地方の複数の社会的事象同士を関連付け、意思決定できる。</td> <td style="text-align: center;">4人</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td>地理的な視点を基に、関東地方の社会的事象を関連付け、意思決定できる。</td> <td style="text-align: center;">2人</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">C</td> <td>C : Bに至らない</td> <td style="text-align: center;">0人</td> </tr> </tbody> </table>		評 価 基 準	人 数	A	地理的な視点を基に、関東地方の複数の社会的事象同士を関連付け、意思決定できる。	4人	B	地理的な視点を基に、関東地方の社会的事象を関連付け、意思決定できる。	2人	C	C : Bに至らない	0人
	評 価 基 準	人 数											
A	地理的な視点を基に、関東地方の複数の社会的事象同士を関連付け、意思決定できる。	4人											
B	地理的な視点を基に、関東地方の社会的事象を関連付け、意思決定できる。	2人											
C	C : Bに至らない	0人											

### ③ 実践2の考察

単元の課題把握段階で、自然環境、人口、産業、交通などの視点の条件を盛り込んだ「パフォーマンス課題」を提示したことは、実践1と同様に、生徒が地理的な視点を基に思考する上で有効であった。さらに、このような条件付けをした課題を繰り返すことで、課題把握段階でも社会的事象の関連付けを行う力を培っていることが、抽出生徒A、生徒Bの記述や、全体の中から出た発言から判断できる。

意思決定段階においても、地理的な視点を基に、意思決定に寄与すると考えられる社会的事象同士を関連付け、意思決定できた生徒が増えたことから、研究内容②のWSの工夫も有効であったことが確認された。加えて、生徒A、生徒Bの記述をみても、実践1より複数の社会的事象を関連付けられるようになっている。これは、WSで視点をしぼりつつ、重要度を意識させることで、社会的事象同士の比較・検討が促され、事象同士の結びつきに気付くことができたと考えられる。実際に生徒A、生徒Bの対話の中で「ドーナツ化現象」をもとに、産業、交通、自然環境の関連付けに対して理解を深める場面が確認された(資料P.12)。

これらのことから、研究仮説が有効であったと考える。

## 5 結論

単元を通して、次の(1)・(2)の手立てを講じることで、生徒が地理的な視点を基に、社会的事象を関連付けて意思決定することができた。

- (1) 単元導入段階で、自然環境、人口、産業、交通などの視点の条件を盛り込んだ「パフォーマンス課題」を提示する。
- (2) 単元終末段階で、考える視点の重要度を位置付けたワークシートを使って「パフォーマンス課題」に対する意思決定をさせる場を設定する。

## 6 研究の成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

- 2つの実践を通して、研究仮説が正しかったことがわかった。それは右に示した生徒の振り返りからも判断できる。
- 自然環境や人口、産業、交通などの地理的視点を盛り込んだ「パフォーマンス課題」を繰り返し行うことで、知識がない分未熟ではあるが、予想段階でも地理的な視点を基に、社会的事象を関連付けながら意思決定できる方法を見いだせた。
- 意思決定段階前に、視点を絞り込みつつ重要度を意識させることで、社会的事象同士の比較・検討が促され、自分の考えをまとめたり、他者と対話をしたりした際に、より多くの社会的事象同士の関連付けを可能にさせることが明らかになったことは、2年にわたる実践研究の成果と考える。

今日の授業をやってみて、自分の思っていることを人に分かりやすく説明するのがとても難しかったけど、友達のアドバイスなどを聞いて自分の文章をよりよくすることができました。今回の単元をやってみて、関東地方は発展している要因は、自然地形、交通、仕事などが関連し合っていることがわかりました。(実践2の生徒A)

### (2) 今後の課題

「パフォーマンス課題」の条件付けや本実践の単元構成の工夫が、歴史的分野や公民的分野でも活用できるのかの検討をすることが必要となる。歴史的分野や公民的分野でも、生徒が各分野の視点を基に思考したくなる条件付けをした「パフォーマンス課題」を提示したうえで、視点を明確にしつつ重要度を意識したWSを工夫することで、生徒が複数の社会的事象を関連付け、妥当性の高い意思決定を可能にする実践研究を、今後も継続していきたい。

#### 《引用・参考文献》

- (1) 小原友行「社会科における意思決定」社会認識教育学会『社会科教育学ハンドブック』明治図書、1994年。
- (2) 唐木清志「子どもの「問い」を継続させるための工夫」『社会科教育10月号・750号』明治図書、2021年。
- (3) 川端裕介『単元を貫く学習課題でつくる！中学校地理の授業展開&ワークシート』明治図書、2019年。
- (4) 川端裕介『川端裕介の中学校社会科授業 見方・考え方を働かせる課題設定&評価スキル60』明治図書、2022年。
- (5) 七里広志『思考ツール×パフォーマンス課題でつくる中学校社会科授業』明治図書、2022年。
- (6) 中野英水『パフォーマンス課題を位置づけた中学校地理の授業プラン&ワークシート』明治図書、2021年。
- (7) 西岡加奈恵・石井英真編『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価 「見方・考え方」をどう育てるか』日本標準、2019年。
- (8) 峯明秀「社会科における意思決定」社会認識教育学会『新 社会科教育学ハンドブック』明治図書、2012年。
- (9) 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説』2017年。